

第 59 回北海道小学校長会 教育研究小樽大会 閉会式 研究大会大会長 挨拶



道内では昨晚も、大雨の地域が多数あり、稲穂峠の通行止めなどの交通障害、羅臼町の土砂崩れ、また河川の氾濫の恐れから、釧路根室オホーツク十勝管内で、少なくとも171名が避難している状況にあると報道されています。改めて、被災された皆様方にお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、第59回北海道小学校長会教育研究小樽大会の幕が、今静かに下ろされ、歴史と文化の街小樽から来年度の日本のでっぺん子育ての街宗谷への道がつながれようとしています。

昨日と今日の二日間、真剣に、熱く考え語り合った研究大会でありました。全道より、台風被害を乗り越えご参集くださいました会員の皆様の熱心な研修、ありがとうございました。

JR運休、高速バスも超満員、そんな中、大変なやりくりをつけてバスを手配され小樽にこられたその心意気、日帰りや、交通手段変更など、困難な状況を乗り越える北海道の校長先生方の熱意に胸を打たれました。心から感謝いたします。

この大会を開催するに当たり、北海道小学校長会では小樽大会実行委員会の協力を得て、参加者が満足できる参画型の分科会の準備を進めてまいりましたが、先ほど、岡村宏安（おかむら ひろやす）研修部長から報告がありましたように、校長の役割と指導性について、13の分科会全てにおいて、熱心かつ提案性のある協議が行われ、分科会の充実の更なる進化を求めてきた本大会の目的を十分に果たすことができたことを確認いたしました。

昨日の分科会において貴重な提言をしてくださいました各地区の研究発表者、長い時間をかけ参画型の分科会協議の在り方を模索して下さった司会者・趣旨説明者・運営責任者の校長先生方、そして何よりもご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

参加された校長先生お一人お一人の高い参画意識が、大会を更に意義深いものにしたことを誇りに思うとともに、成果が全道の各学校に還流していくであろうと確信しております。

想定外の台風で、大変な対応を強いられる中、この二日間の大会を見事に運営し演出して下さった 寺澤真大会実行委員長、井村文俊実行委員会事務局長をはじめとする 21 名の小樽市小学校長会の皆様、本当にお疲れ様でした。おもてなしの心にあふれた大会運営から、小樽市小学校長会のチーム力、チーム小樽の実力の高さを見せていただいたように感じます。本当に、ありがとうございました。

小樽大会の分科会の充実を示すエピソードを紹介します。

昨日全体会で学習指導要領の改訂について講演された、全連小の大橋会長は、午後の 5 つの分科会の発表や運営、討議を少しずつですが、ご覧になり、その運営の仕方の工夫や、趣旨説明や研究発表の質の高さ、参加している皆様の真摯な姿勢、などに感動されていました。「九州は日本の中でも研修に向かう気持ち熱い地区だが、北海道はもっと熱い！」とお話しされていました。

さらに、大橋会長は、全国 8 地区の常任理事や会長副会長が集まる常任理事会で北海道の小樽大会の運営の工夫等を発表するよう要請されました。まさに、北海道の校長先生方の熱気や素晴らしさが全国に伝わり、「日本の教育は、北海道が先導していく」ということになりました。

今回の二日間の小樽大会で交流し学び得たものを、各地区・各学校に持ち帰り、是非明日からの学校経営・教育実践に生かし、子どもの姿を通して本大会の成果を表すことこそ、台風被害に現れた皆様を元気にする力となると信じています。

また来年、校長としての研鑽の成果を持ち寄り、小樽大会で再会したいと思います。参加されました校長先生方の、益々のご活躍とご健勝をご祈念申し上げるとともに、今一度、寺澤実行委員長を始めとする小樽市小学校長会、バックアップして下さった、小樽市中学校長会、後志小中学校長会の皆様に、心より感謝の意を表すとともに、最後まで完全参加にご協力いただいた皆様に心から敬意を表し、閉会式の挨拶といたします。

二日間、本当にありがとうございました。